

甲賀市子育て支援施設整備方針に基づく保育施設等再編の進捗状況について

1. 整備方針の概要と背景

(1) 策定の目的: 持続可能な教育・保育環境の構築

【背景】

平成27年策定の「再編計画」から10年が経過。少子化の急進行、保育ニーズの多様化、施設老朽化、保育士不足など、環境が激変。

【目的】

こどもたちの「育ち」を支える最適な環境を持続的に提供するため、令和7年度からの10年を計画期間とし、令和7年3月に「整備方針」を策定。

(2) 保育施設整備の基本理念

【集団による学びの質の確保】

一定規模の集団による「遊びを通じた学び」を確保し、社会性や協調性を育む。

【配置基準の強化】

「こども未来戦略」に準拠した職員・教室配置を実現。

【拠点としての公立園の配置】

5地域（水口・土山・甲賀・甲南・信楽）に各1園を配置し、医療的ケア児対応やインクルーシブ保育、地域子育て支援の「核」とする。

【民間との役割分担】

民間事業者の柔軟・効率的な運営による「特色ある保育」の提供を支援。

2. これまでの再編実績

水口・甲南地域において大規模な再編を完了。

【水口地域】

水口西（→あいみらい保育園）、岩上・水口東（→ここのつす園）、伴谷（→伴谷くじらこども園）の集約

【甲南地域】

4保育園（東・西・南・北）を統合し、令和6年4月に「レイモンド甲賀こども園」開園。

3. 現状と喫緊の課題

土山・甲賀・信楽の3地域では再編が進んでいない。整備方針の早期実現と併せて、人口動態やニーズなどの状況の変化への対応が必要。

【人口動態との乖離】

市全体としては少子化が進行しており、顕著な状況は、再編が進んでいない地域と重なる。

また、子育て世代の市内移動（土山・甲賀・信楽→水口・甲南）の増加と連動して、甲南、水口地域において新たな住宅開発が計画され、整備方針の将来予測を上回るニーズが発生。

このことから、整備方針の方向性について見直しが必要となる可能性もある（特に、5地域に公立園各1園を配置する点）。

【施設老朽化】

夏季の高温対策等も含め老朽化施設への抜本的な対応が急務。

【保護者・地域ニーズ】

「地元志向」と「利便性・交通アクセス」の両立が求められている。

4. 令和8年度の重点取り組み

(1) **甲賀地域の再編**：今後の人口動態を考慮した、検討対象エリアの拡大。（甲賀地域単独ではなく、寺庄エリアを含めた地域での再編。）

【合意形成】

市有地（5箇所程度）を候補軸に、保護者・地域住民と協議し、利便性と安全性を確保した立地を決定。

【複合的支援】

放課後児童クラブの整備も視野に入れ、保護者の就労支援をトータルで検討。

(2) **朝宮保育園の閉園と地域活性化策の検討**：「朝宮地域の公共施設のあり方」という大きな枠組みの中で、他部署と連携。

【地域協議】

単なる閉園ではなく、地域の将来像に資する形での跡地・施設活用を協議。

5. 整備スケジュール(案)

年度	甲賀地域の再編	朝宮保育園
R 8 年度	設置場所・整備規模の決定（地域・保護者協議）	地域協議・閉園に係る条例改正 令和9年3月末閉園
R 9 年度	各種調査・造成工事設計	
R 1 0 年度	事業者公募・選定、造成工事着手	
R 1 1 年度	園舎建築工事	
R 1 2 年度	新施設供用開始（既存施設解体）	